

## 第1章 はじめに

耐久性のばらつきには、劣化要因の累積量がある程度制御できる実験室レベルでも見られるばらつきもあれば、実構造物では、施工品質のばらつき、作用の累積量のばらつきもある。そして、変状の兆候の発見や対処への容易さも、実構造物の耐久性のばらつきにつながる。そこで、耐久性の信頼性を向上させるためには、構造の細部への入念な配慮が重要になる。しかし、劣化要因やその影響の累積のばらつきを減らしたり、点検により変状の兆候や要因を確実に捉え、措置できるようにするための構造上の工夫は経験的な対処に依ることがほとんどであるし、試行錯誤に依ることが多い。また、試行錯誤の例が共有されないことで個別の模索が繰り返されているのでは、我が国の道路橋全体として耐久性の信頼性向上を図るのが難しい。

そこで、耐久性の局所的なばらつきを減らす効果が期待できそうな知見・事例の蓄積と共有を進めることを目的として、国土技術政策総合研究所、(国研) 土木研究所、(一社) 建設コンサルタンツ協会、(一社) 日本橋梁建設協会、(一社) プレストレスト・コンクリート建設業協会は共同研究を行い、耐久性の信頼性向上策を収集し体系化することを試みた。